秋合宿及び第一回三国峠ヒルクラム報告・反省

キャプテン・岡本光幸

去る十月三十日より十一月二日までの三泊四日で秋合宿を行なった。昨年と同じコース、同じ宿泊施設を利用したのは昨年の秋合宿でのコース、宿泊地が好評であったことと、昭和四十五年度運営委員会の検案であった「伝統的な行事を作ろう」という考えのもとに、三国峠におけるヒルクライムを実施せんとしたためであった。

年に一度の全学的な行事である立教祭に参加せずに秋合宿を行なうことにクラブ内外から色々の形で反論があったが、運営委は立教祭と秋合宿はまったく別個なものであると考え、本年度は、来年のクラブの主体になるべき二年生男子が居ない事から、走行面での指導を重視したこと、及び立教祭というものの把え方の問題として、クラブ員全員の手によるクラブ活動の集大成として立教祭をとらえた結果、今年は部員全体の知識レベルの極端なばらつきがあり、公式に発表するまでに至ったテーマが存在しないということから立教祭不参加という結論に達っし、旦つクラブの結束を高め、サイクリングに最適な時期をムダにすることなく、検案のヒルクライム実施の絶好の機会として秋合宿の実施に踏み切った訳であります。

さて、秋合宿ですが立教―飯能―正丸峠―秩父―三国峠―秩父湖―信濃川上という女子には明らかにキツイコースであった為に自動車を一台用意しての男女混成全体合宿として行ないました。二日目の飯能―秩父のコースが距離的に最も長く、正丸越えと秩父湖畔までの登りがあったので男女とも合宿中最も大変であったが、二人の女子が予想に大きく反して完走したのはまさに奇跡的であり、来年以降の合宿に期待をいだかせるものとして大きな成果でした。また前記のような意図で行なった為に一年生男子にリーダーを任せ全体として一・二年生を中心に三・四年が補助的に連いてゆく形で班編成をしたが、リーダー・シップ、班としての責任完うへ各班に昼食の食膳、湯沸の仕事を分担したという面ではまー一歩の努力が期待されます。しかし、全体としては、天候に恵まれた事、コースが良かった事、ヒルクライムという合宿のハイライトがあった事などから、今回の秋合宿は成功であったと結論づけて良いと思う。